平成 30 年度　瀬戸市立古瀬戸小学校

水質調査新聞

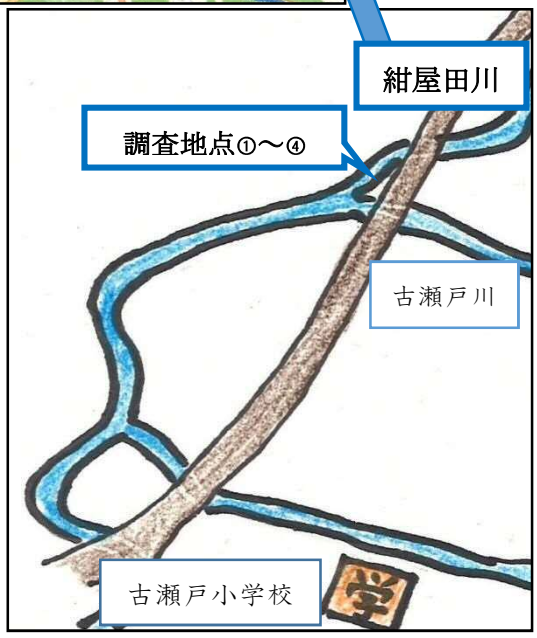
～紺屋田川を メダカのすめる川に～

来年度末の閉校に向け、今年度の活動をもって水質調査活動を終了することとなりました。18 年続けたこの活動をどうまとめていくか考え、今年度は 3 年生以上全員が「水質調査新聞」という形で記事を書くことに決まりました。子ども達の力を結集したレポートです。

紺屋田川は、古瀬戸川と合流し
瀬戸川に流れ込む川である
瀬戸川は矢田川と合流し
矢田川は庄内川へと合流
そして、伊勢湾へと流れ込む

～目次～

① 「伝えてつなぐ川の調査隊」（4 月 18 日）
② 「100%きれいになったよ」（6 月 27 日）
③ 「水のきたなさ、ハンパない！」（6 月 12 日・7 月 10 日）
④ 「メダカよ、ピンチをきりぬけろ！」（メダカ池活動）
⑤ 「紺屋田川、生き物調査」（6 月 13 日）
⑥ 「二刀流、ちまき～浄化装置案～」（5 月 30 日）
⑦ 「未来をこねろ～浄化装置作り～」（7 月 11 日）
⑧ 「いざ、設置！～浄化装置設置～」（9 月 12 日）
⑨ 「瀬戸川にて、ついに発見！」（9 月 19 日）
⑩ 「紺屋田川の未来を見つめて」



水質調査新聞

瀬戸市立
古瀬戸小学校
5・6 年
・村越 梨乃和
水野 那胡
太田黒 恭智

伝えてつなぐ川の調査隊

体育館でひびきわたるみんなの声

四月十八日、体育館で三～六年生が「総合オリエンテーション」を行いました。これは、四～六年が昨年行った調査を報告し合い、今年の調査をどのようにするか考える会です。四年生は三年生で行うメダカ池について、五年生は四年生で行う生き物調査、六年生は五年生で行う水質調査について説明しました。

三年生はメダカ池のせいそうや、メダカの観察をします。観察では、メダカの様子、池の周りの様子を調べます。

四年生で行う生き物調査は川にどんな生き物が住んでいるのか調べます。生き物によって、きれいな川に住む生き物ときたない川に住む生き物が調べると、川のきれいさがわかるからです。

五年生で行う水質調査は、川のきれいさをこまかく調べます。COD、とうしど、電気伝導度という道具を使います。これらをオリエンテーションで、げきや文、図で伝えました。

（那胡）

ラスト一年責任重大

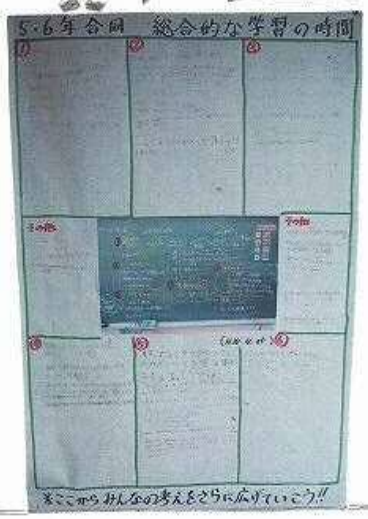
五月九日、三～六年生で柿屋田川の下見に行きました。今年の川の様子や浄化装置をどこに設置するのかを調べるためです。川の下見に行って二つのことに気づきました。

一つ目は、柿屋田川の草やゴミが多くなっていたことです。私達が知らないうちに地域の方が草やゴミをとってくださったことに気づきました。感しゃを伝えたいと思いました。

二つ目は柿屋田川に行くと中歩道やせと川のあたりにゴミが落ちていたり草がのびほうだいだったりすることに気がつきました。

今まで私達は柿屋田川だけをきれいにしていたけども、もっとたくさんな場所をきれいにしていきたいと思いました。

（梨乃和）



3～6年で川のかんさつ

オリエンテーションをしてから浄化そう置の事がよく分かりました。自分が発表する時にできるだけ分かりやすくするためにがんばりました。できるだけ前を見る様に写真を付けました。

（泰知）

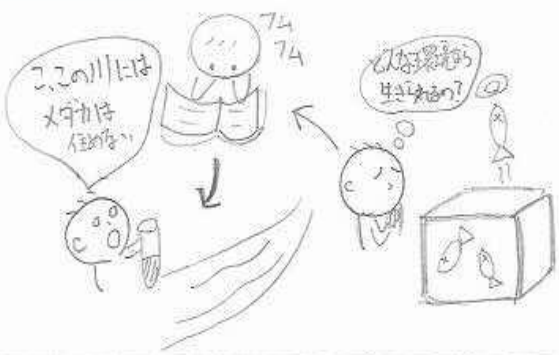
未来へつなぐ浄化装置への思い…

ちょこっとコラム

水質調査の始まり

水質調査の始まりを探ってみると平成十二年度にまで遡りました。この年の五年生が水槽で飼育していたメダカが続々と死んでいき、メダカの住める環境や地域の川の水質も調べたことが始まりだったようです。

その後、浄化装置設置や生き物調査、水質パトロールまで次への多くの活動の幅も広げて多くの年で活動するようになりました。



そして全てが始まった

水質調査新聞

瀬戸市立
古瀬戸小学校
５．６年
松原 世純
藤田 真璃亜
黒河 愛里
戸田 結菜

川がきたなかったよ

がんばるぞ

六月二十七日、五、六年生で紬屋田川の清掃を行いました。清掃した場所は、前の六年生が浄化装置を設置した場所です。下見や水質調査の結果、川がにごっていたことが分かり、みんなと話し合い清掃することに決めました。カメブラシ、デッキブラシ、火バサミで清掃を行いました。一人一人スーパーぶくろふんぐらいとれました。（真璃亜）

私は、家からスーパーのふくろを持ってきて、ゴミを拾いました。スーパーのふくろがゴミでいっぱいになっても川のために、ゴミをみのがさずに、拾い続けました。特に、去年の六年生が設置した浄化装置の上に、緑色のもが、たくさんついていました。もがついていると、川を浄化できません。私は、浄化装置を中心に清掃をし、とてもきれいになったと思いました。とても暑い日で大変でしたが、みんなで協力したこと。川がきれいになったことで、気持ちが明るくなりました。（あいり）

100％きれいになったよ

川の清掃を行いあらためてゴミがたくさんあると思いました。おかしのふくろ、コーヒーの缶、タイルやとう器などたくさん落ちていました。こういったゴミが川の流れもじゃましています。先ほど行った川の清掃や浄化装置をむだにしないため地域の人にも協力してほしいと思います。（世純）

川に、菜、おかしのゴミ、缶、とう器が思ったよりたくさんありました。これから、川をきれいにする、とり組みをたくさんしたいと思いました。川をきれいにすればメダカが住めるぐらいきれいになると思います。紬屋田川にメダカが住んでいたらとてもうれしいです。（真璃亜）

川がきれいになりますように

も、缶、ビニルぶくろ、くつまでも紬屋田川に付落ちていました。川にゴミを捨てずにちゃんとゴミ箱に捨ててほしいと思いました。一人でもゴミを川に捨てると他の人たちも同じようにゴミを捨ててしまうと思います。一人一人が川をよごさない気持ちをもって気をつけていってほしいと思いました。（結菜）

私は、川をきれいにすることで、心がスッキリしました。ゴミが少なくなったら、心もきれいになりました。川の生き物が住めやすくなったと思います。川がきれいなままであるため、ゴミを捨てないことを私は、ちかいます。（あいり）

川の清掃をして、一人一人の協力が大事だという事、川がきれいになるために地域と協力していくことが大切だなあと思いました。（結菜）

ちょこっとコラム

「過去の清掃活動」

川の清掃は毎年三回程行なってきたようです。ここ数年は、清掃の度におかしの袋や空きビン、ざらには自転車のタイヤ・もかなりの量のゴミが見つかります。さっと昔もそうだったのでしょう。何年いもわたって、この川をきれいにするための落しう活動も続けてきました。

子どもたちの「川をきれいにしたい」という思いを様々な形にしてきたことが資料からわかると思います。学校の下に設置されている看板も子どもたちの手で作られたもので、平成二十九年度に新しくしました。これらの活動によって川をきれいにしようとする思いが高まっていると信じたいです。

今年度を最後に古瀬戸小学校としての活動は終わってしまいます。しかし、「川を大切にしたい」「川をきれいにしたい」という思いはこれからもずっと続けてほしいと思います。そして、地域全体で、ここにある自然を守っていくことが大切ではないでしょうか。子どもたちが大人になったときに、誇れるような環境になっていることを願っています。

〈これまでの主な働きかけ〉

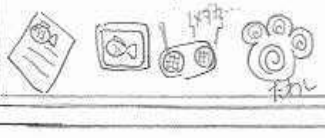
H19 … メダカ通信の発行

H22,23 … ラジオ・新聞・テレビなどメディアでの発信

H24～ … 学校HPの充実

H27 … 環境保全を呼びかけるポスターの作成

H29 … アクリルたわしの配付



水質調査新聞

瀬戸市立
古瀬戸小学校
５・６年
水野茉央
水野千聖
伊藤輝星

水のきたなさハンパない！

水質調査は、６月12日と７月10日の２日間行いました。五、六年生で分かれていろいろな地点のデータをとりました。調べた地点は４地点です。（下図参照）水質調査で調べたのは、①透視度②ＣＯＤ③電気伝導度です。①透視度、つつに入れた水を少しずつへらしていって、つつの下にある印が見えたときの水の高さを調べます。高い位置で印が見える方が水がきれいです。②ＣＯＤ、パックテストを使って川のきれいさを調べます。ポリチューブに水を入れてふったときの色で数値が決まります。数値が高いほど汚いです。③電気伝導度、測定器に川の水を入れて調べます。数値が高いほど汚くて、低いほど水はきれいです。（煙里千聖）

第１回　水質調査

地点	透視度(cm)	COD(mg/L)	電気伝導度(μS/cm)	水温(℃)	天気(気温)
紺屋田川			(平均)		晴れ 30℃
①	75.5	8	465	24	
②	55	8	470	26	
③	64.5	8	730	28	
④	67	9	510	24	

第２回　水質調査

地点	透視度(cm)	COD(mg/L)	電気伝導度(μS/cm)	水温(℃)	天気(気温)
紺屋田川			(平均)		晴れ 31.5℃
①	49	8	340	26	
②	46	9	645	29	
③	70.5	7	820	28	
④	57	7	700	26	

第一回の水質調査の結果から、川はあまりきれいではないということが分かり、六月二十七日、五・六年生で清掃し、清掃後は西パーセントきれいになりましたが、第二回目の水質調査のときに川を見たらゴミがたくさん落ちていてとても悲しい気持ちになりました。私たちが清掃して、きれいにしても、きれいな状態は長くは続かないということがショックでした。私たちも毎日そうじができるわけではありません。そこで、やはり毎年つくっている浄化装置をつくり、その効果に期待することにしました。（美夜）

ちょこっとコラム

水質調査の面白さ

水質調査の面白さといえば、「川の汚れを数値として見ることができる。」ということでしょう。今までは、水の匂や臭いなど五感を使って主観的に川の汚れを判断してきました。それらを数値に表し、表やグラフにすることで客観的に川の汚れを見ることができます。「見た感じ汚いけど、意外ときれいだ！」「前回よりきれいになった！」と、ただ観察するだけではわからない感想・気付きがどんどん出てきます。

さらに、調べた結果から原因を考察することも面白さの一つです。とても難しい活動ではありましたが、友達と協力して一生懸命考える姿がありました。

調査の難しさ

とても面白くて勉強にもなる水質調査ですが、正直かなり難しかったです。いったい何を調べているのか、それかとても難しいのです。特に分かりにくいのが「ＣＯＤ」です。まって子どもたちが聞いてきます。「Chemical Oxygen Demand の略だよ。」と教えます。さっぱんとしている子どもたちに日本語で説明します。「化学的酸素必要量、って意味だよ。」もう何が何だか分かりません。しかし、子どもたちなりに考えて、調査する意義を感じてくれます。

こんなに難しい調査を続けてきた古瀬戸子は立派です！

水質調査新聞

瀬戸市立
古瀬戸小学校
3年
16名
（記事に署名）

ショック！メダカ池全めつ！ざんねんだっ！

三年生になってメダカのかんさつに行くときいて、ぼくはわくわくしていました。そしてみんなといったら、メダカ池にはなんとメダカが一ぴきもいませんでした。どこかにメダカが、一ぴきでもいるかもしれないと思ったので探しました。でもみつけたものは、ヤゴばかりでした。先生にメダカのことをきいたら、メダカはぜんめつしたと言ったのでがっかりしました。五月になったらメダカがいました。地いきの人からもらった黒メダカでした。古せと小学校にメダカがもどってとてもうれしかったです。（ゆうと）（こたろう）

四月にメダカ池を見に行くとメダカは、一ぴきもいませんでした。でも、ヤゴやアメンボはいましたヤゴは、だっぴそしてました。五月にメダカ池を見に行くと、メダカがいっぱいいました。もともうれしかったです。（ゆうき）

メダカのたまご発見

五月二十一日ゆうなさんがたまごを発しました。ぼくは見つけられなかったのでとてもすごいと思いました。水草にもたまごがついていたそうです。ゆうとくんが見つけて、見にくいのにすごいなと思いました。六月までごかりうまれたとてもちいさいめだかがいました。七月にもうまれためだかが発見されました。まごかりかえり大きくそだってほしいです。（むらた）

五月二十一日ぼくはメダカのえさやりをした時、水草にたまごがひっついているのを見つけました。たまごの色はとうめいでちょと黒色がかっていました。そしてと。

六月六日に小さなメダカがいました。メダカが、ぶじにふかできて上かったです。（れお）

ぼくはメダカのおなかにたまごがついているのを見つけました。六月二十八日と七月三日に小さなメダカが発見されました。たまごが、かえったと思いとてもうれしかったです。メダカのたまごはだいたいのミリぐらいでした。すこしそだってきつも黄いろ。ぼくなっていました。たまごから生れた小さなメダカはもミリぐらいでした。（みさと）

メダカよ、ピンチをきりぬけろ！

六月二十七日にメダカ池のそうじをしました。わたしは、まずあみのそうじをしました。あみのそうじは、水でぬらしてタワシでぬるぬるがなくなるまでこすります。ぬるぬるがなくなったらもう一回水でぬらしてきれいになりました。（ゆうき）

ぼくは、きたないなと思い、しんけんにみがきました。草といっしょに教頭先生が、メダカ池の中に入って池の中の枯れ葉をひろっていたら、とうきのはへんが出てきました。ぼくは、なんでとうきのはへんがおちているんだろうと思いました。やりトボトルキャップもおちていたので、エコキャップにかえるのに、もったいないな、と思いました。そうじをして、ペット強になったことがいろいろありました。またそうじもして、今度はもっときれいにしたいです。（こうき）

ていねいに、何度もみがいたよ。

ぼくたちがそうじをやりぎったせいか、メダカは元気に泳いでいました。メダカが一せいに泳んでいるように見えました。も、とメダカがふえるといいなと思いました。（ゆうき）

メダカ池がきれいになってメダカがうれしそうでした。また池がきたなくなるないように何回かそうじをして、メダカがすみやすい池にしたいです。（こみず）

めだか池にゴミをすててほしくないと思いました。水も、もれていたのでぼくはめだか池をちんぼうにかってほしくないと思いました。（いしどる）

池のまわりが草いっぱいだったり、メダカ池の中にゴミがおちていたからメダカが四月にいなくなってしまったんだと思います。（かぼ）

そうじしたのに…

二学きになってまたメダカのかんさつがはじまりました。

六月二十八日にそうじをしてから二か月たち、わたしの目に見えたのは、もがたくさんある池でビックリしてしまいました。（あやか）

九月、またメダカ池にメダカの赤ちゃんがいました。赤ちゃんのおなかは大きかったです。赤ちゃんは、えさをあんまりたべませんでした。あかちゃんは、池の上の方にはいなかったのでえさを食べなかったかもしれません。大人のメダカと赤ちゃんのメダカは、どんどんちがいました。大人のメダカのほうがかなりスピードがはやかったです。（ゆう）

九月二十八日に、メダカの赤ちゃんがいました。二ミリメートルから四ミリメートルくらいの大きさでした。元気にそだってほしいなと思いました。メダカ池がもで、とてもよごれていました。メダカ池をそうじした後は、きれいだったのに、よごれているのをみて、とてもおどろきました。メダカ池をきれいにしていくには、一か月に一回くらいそうじをしなければならないと思いました。（まなか）

お世話はづくよ、どこまでも

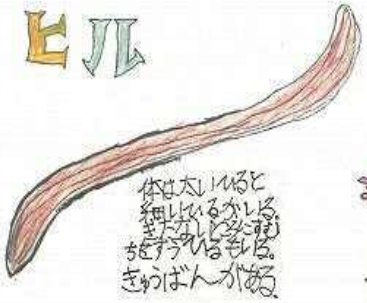
メダカ池の、法則より物だからおどろきすることはとても大切なことだと分かりました。（ひまり）

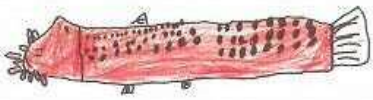
水質調査新聞

紺屋田川 生き物調査

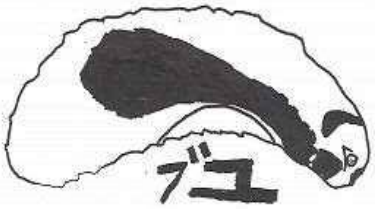
瀬戸市立
古瀬戸小学校
４年
石井 瑛水　東 健太郎
井筒 美咲　加藤 碧
岡田 涼　香賀 結良
久野 永遠　小山 柚佳
清水 大智

わたしたちは、六月十三日、歩いて紺屋田川に生き物調査に行きいろんな生物をとりました。紺屋田川には家や工場の水がたくさん流れていてにごっていました。わたしたちが調べたところは、新しく橋をかけた場所で、生物もあまりいないと思いました。でもけっこういておどろきました。とれた生物は、少ないじゃんで、カゲロウ一ぴき。ブユ一ぴき。ドジョウ一ぴき。イトトンボのヤゴ二ひき。外来種のアメリカザリガニ五ひき。ミズムシ二十ぴきいじょうです。十一年前にはクロメダカやヒメダカ、グッピー、どじょう、ヨシノボリもいたのに悲しいです。また、川をきれいにして、紺屋田川に、慣してほしいです。（柚佳）



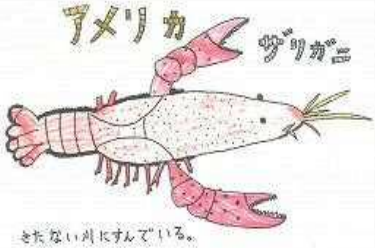


長短あわせて十本のひげ



きたない川に
すむ生き物が
多いよ…

とれた生き物の多くはミズムシでした。ミズムシはきたない川に住む生き物です。アメリカザリガニもたくさんいました。このままメダカを紺屋田川に放してしまうと、きたない水で死んでしまうか、ザリガニたちに食べられてしまいそうなので、川をもっときれいにしたいと思いました。十一年前は紺屋田川にクロメダカ四匹とメダカ二匹が見つかっていたので前はきれいだったのですが、次の年からメダカが見つからなくなったそうです。川がよごれはじめたので瀬戸川にメダカが流れていったのではないかと考えました。（建太郎）



松本先生といっしょに川の生き物をとりました。外来種がいました。外来種は本当は日本にいてはいけないのにいたので、紺屋田川はきたないのかなと思いました。紺屋田川には、アメリカザリガニ、ミズムシ、ドジョウ、ヒル、アメンボ、カゲロウ、イトトンボ、ヤゴ、ブユ、ミズカマキリがいました。紺屋田川は森に近い上流で川の水はきれいなはずなのにアメリカザリガニやミズムシ、ヒルなどのきたない川にいる生き物がいたのでとてもびっくりしました。

わたしたちはこれから紺屋田川をきれいにして、これからあたらしい学校になってもこの活動をつづけたいなと思いました。（結良）

ちょこっとコラム

二月生日瀬戸川に行きました。ウシガエルのおたまじゃくし、エビ（又マエビ）、スジエビや、大量のアメンボ、メダカ、ヤゴ、ヨシノボリがいました。きれいな川の生き物なので瀬戸川はきれいなのかなと思いました。ゴミもありました。（珀石）

二〇〇七年から始めたきた生物調査の経年変化を表にまとめてみました。表から分かることは「紺屋田川の水質が汚いとは言い切れない」ということです。ただ汚い川にすむ生き物が定着しているとはいえるようです。外来種のアメリカザリガニなどはメダカにとって天敵です。メダカを紺屋田川に取り戻すためには、こういった外来種の根絶が必要なのかもしれません。

水質	きれいな水							ややきれいな水					汚い水				とても汚い水			
生物／年代	クロメダカ	ヒメダカ	シマドジョウ	ヨシノボリ	カワムツ	ヤゴ	オイカワ	スジエビ	ヌマエビ	カワニナ	マツモムシ	ミズムシ	タイコウチ	タニシ	ヒル	アメリカザリガニ	サカマキガイ	チョウバエ	エラミミズ
2007	○	○	○		○	○	○				○	○			○	○	○		
2008			○			○			○			○			○	○	○		
2009					○	○			○			○			○	○	○		
2010			○		○	○			○			○			○	○	○		
2011			○	○	○	○			○			○		○	○	○	○		
2012			○	○		○	○		○	○		○			○	○	○	○	
2013			○			○	○	○		○	○	○	○		○	○	○		
2014			○			○	○	○		○	○	○	○		○	○	○		
2015			○	○		○	○		○			○			○	○	○		○
2016			○				○		○			○			○	○	○		
2017	○		○	○		○	○		○			○			○	○	○		
2018			○									○			○	○	○		

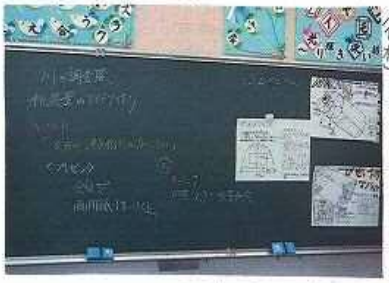
水質調査新聞

瀬戸市立
古瀬戸小学校
６年
堀　開道
岩中　佑樹
坂野　凪咲

二刀流ちまき

六年生が五年生へ決定した浄化装置のプレゼンをしました。決定したちまきの長所を説明します。（佑樹）

ちまきの二刀流の一つ目の刀は、とてもよ夫ということです。ちまきの後方はもみを帯びていて、水の抵抗を受けづらい形になっています。もう一つの刀は、浄化作用が高いということです。浄化装置に穴をあけることによって微生物が住み、浄化作用を高めます。さらに浄化作用のある木炭を入れることで浄化作用をWで高めました。下の写真はクラスでプレゼンをしている写真です。（開道）

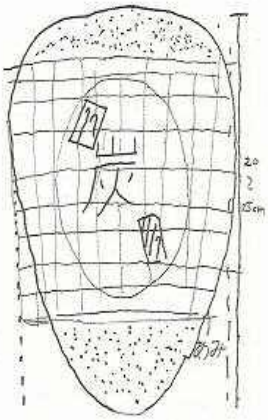


「ちまき」の名付け親の水野さんにインタビューをしてみました。

?なぜこの名前にしたのか

A.キーワードにそって浄化装置を作ったらちまきの形になったから。（佑樹）

左の写真は古瀬戸小学校最後の浄化装置を作成するにあたり、大切にしたいキーワードをクラスで選んだときの写真です。キーワードは過去の浄化装置のアイデアを参考にして決めました。（佑樹）



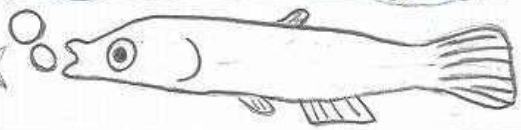
〈説明〉

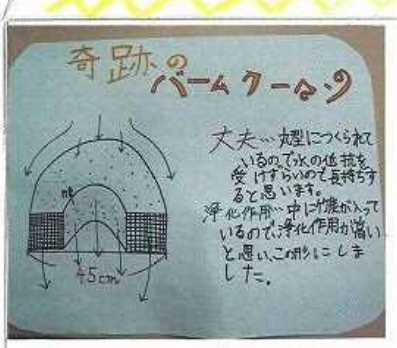
1、水のていこうを、少なくするために、丸みをおびた形にし、平たくします。

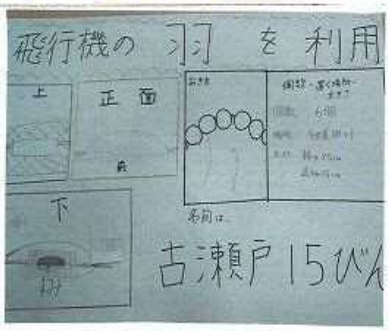
2、炭を入れて浄化作用を高くするために、上と下に穴をあけます。

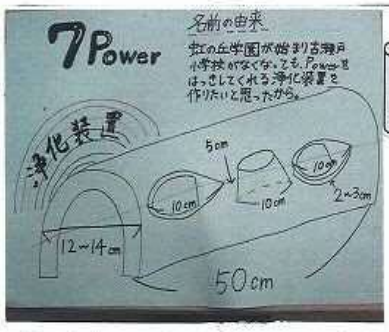
よりよい川への第一歩

これが決定した「ちまき」です☆









ちょこっとコラム

2018年おしくも敗った浄化装置案

「奇跡のバームクーヘン」

食べものからイメージをふくらませたアイデア。キーワードである「丸夫」、「浄化作用」を高いことを目安にすることを考案していました。

「古瀬戸15びん」

丸夫な浄化装置にするため、水の抵抗を減らすことを考えたアイデア。水も空気も近い有機の羽の形にした浄化装置を考案していました。

「7Power」

過去の浄化装置の中で効果が高かったと思われるものを連結するというアイデア。

耐久性を高めるために虹のようにしやすくする工夫を考案していました。

水質調査新聞

瀬戸市立
古瀬戸小学校
5・6　年
杉浦　由奈
村田　陽咲
林　優月

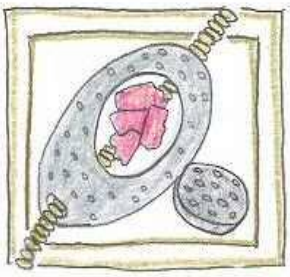
未来をこねる～浄化装置作り～

初めに…

七月十一日図工室で五・六年生が、浄化装置を作りました。二つのキーワードに注意しながら一生懸命作りました。（陽咲）

ちまきの説明

ちまきは六年生の水野未央さんが案を出した浄化装置です。水の抵抗を減らすために、れみをおびた形にし、平たくしました。ちまきという名前の由来は形がちまきにていたので、そのような名前にしました。（優月）



未来をこねている様子

粘土

まずは水・粉粘土・おがくずをまぜます。4人～5人が心を一つにして一生懸命こねました。3つのこうていの中で一番たいへんな作業でした。（由奈）

一人一人の感想

。とってもつかれました。

。一生懸命がんばりました。

整形

次に整形にうつります。整形の作業では、「丈夫で浄化作用が高いもの」をテーマに作りました。形は一人一人ちがって個性あふれる浄化装置となりました。（由奈）

一生懸命がんばるぞ～!!

仕上げ

やっと仕上げに入ります。ひもを通すんの工程にうつります。この作業では、ひもが通ることを願してつくりました。

ひも通るかな～

形完成

ついに形が完成しました。みんなの思いがたくさんつまっています。（由奈）

できたぞー

焼く

夏休みに先生方が、みんなの作った浄化装置を焼いてくださいました。先生方ありがとうございました!!

ありがとうございます!!

感想

水質調査を行。できた中でだんだんきれいになっていくのが見られたけどこわれそうな浄化装置もあった。私たちが最後。そんな気持ちで浄化装置を作りました。今までの歴史をうけついで「ちまき」をすえかずさんに教わりながら作りました。メダカがほめるようなキレイな川になってほしい。という思いをこめて。（優月）

底が見えるくらい透明な水になってほしいし、残っていてほしいです。この古瀬戸小学校が閉校しても、浄化作用の高い浄化装置のままであってほしいです。完ぺきな川になることを願います。周りの人に「きれいになった」と思ってもらえるような川になること。努力が実のること、そんなことを考えて未来をつくっていきたいです。（陽咲）

ちょこっとコラム

陶和さんとの交流

古瀬戸の水質調査活動に欠かせない人物。それが水野陶和（みずのすえかず）さんです。その交流の歴史は長く、二〇〇一年までさかのぼります。当時は古瀬戸小の保護者の一人だった陶和さんに、校長の斎藤俊先生が頼んだことがきっかけだったと伺いました。

水質調査を進めるにあたり、地元の川をもっときれいにしたいという夢をたくさんの人がもったそうです。そして川をきれいにする浄化装置を作るために、地元の陶土家である陶和さんに白羽の矢を立てたということです。

それから毎年、子どもたちが考えたアイデアを形にするためにどうしたらいいかのアドバイスをいただき、作成時の指導をお願いしていました。陶和さん本当に感謝しています。

水質調査新聞

いざ、設置！

瀬戸市立
古瀬戸小学校
6年
伊吹夏芽
江藤羽澄
多田雪音

練習ガンバ

私たちが設置したちまき。川の中に固定するため、まき結びをする。結び方がむずかしく、練習では、本番を再現しながらやったり、台風をそうていしてやったため、協力し合いながら練習をした。練習できる期間は、わずか二日しかなかったけれど、みんなそれぞれ練習して、できるようになった。（夏芽）

まき結び

本番！

九月十二日本番の日、雨が予想される中、六人で肩を並べて、川の中に入る。練習通り結ぶが水がじゃまで、思い通りに結べない。友達と話し合いながら、作業していた。分からない時、先生に聞きながら時間をかけてなんとか結べた。雨のえいきょうで、川のかさが増く、水がとてもつめたかった。しかも、川の流れが強く、足がとられもつかれた。（雪音）

川の流れが強かったから、難しかった～！

やったあ！設置完了！

六班の代表の子が浄化装置を設置しているあいだに、残りの子で川の清掃を行いました。みんなの気持ちにはただ一つ「紺屋田川をメダカが住めるくらいのきれいなに。」です。設置が終わった後は、みんなで充実感いっぱいの表情でした。この浄化装置で少しでも川がきれいになってくれることを願っています。

浄化装置設置は今日で終わりですが、川をきれいにする活動に終わりはありません。私は定期的に川の様子を見に川へ足を運びたいと思っています。（羽澄）

上手にできた浄化装置六つを取りつけました。

ちょこっとコラム

今までの浄化装置

二〇〇四年から始まった川の浄化装置ですが、今までにどんな浄化装置を作ってきたのか紹介したいと思います。

〜二〇〇四年〜
・水質浄化いかだ

〜二〇〇五年〜
・水質浄化いかだ
・セラミックボールの小サイズ二〇〇〇個

〜二〇〇六年〜
・セラミックボールの大サイズ八〇〇個

〜二〇〇七年〜
・セラミックボックス

〜二〇〇八年〜
・改良型セラミックボックス

〜二〇〇九年〜
・セラミックブロック

〜二〇一〇年〜
・セラミックパイプ

〜二〇一一年〜
・改良型セラミックパイプ

〜二〇一二年〜
・セラミックキューブ

微生物ホイホイ

〜二〇一三年〜

かまぼこK1号

〜二〇一四年〜

微生物おにぎり君

〜二〇一五年〜

紺屋田川ドーム

〜二〇一六年〜

たまりさん

〜二〇一七年〜

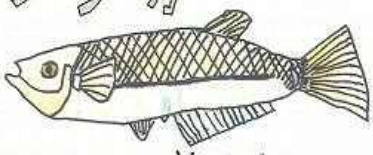
水質調査新聞

瀬戸市立
古瀬戸小学校
４年
乾　早希　江藤 羽音
加藤 逢希　加藤 朋華
高島 遥記　佐々木 奈緒
パレデスマリアン　清水 爽朱
吉野 真

瀬戸川にて ついに 発見！

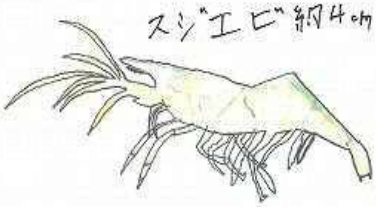
九月十九日、四年生のみんなと、松本先生で瀬戸川に行きました。瀬戸川で、見つかった生き物は、ウシガエルのおたまじゃくし、エビヌマエビ、スジエビ、アメンボ、メダカ、ヨシノボリが見つかりました。活動して、メダカ、ヨシノボリがいたので瀬戸川はきれいだと言うことが分かりました。これからもきれいな川を保ちつつ、さらにきれいにしていきたいです。メダカ、ヨシノボリが瀬戸川にいるとは思いませんでした。わたしたちは、自分たちだけで川を守るのではなく、住んでいるみなさんとも関わって協力していきたいと思いました。（朋華）

メダカ

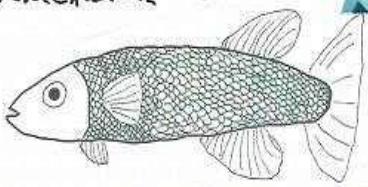


・きれいな川に、すんでいる。
・オスの、せびれは、はしにきれこみがある。
・メスの、せびれには、きれこみが、ない。

スジエビ 約4cm



ヨシノボリ



あおめだか
上から見るとグレーっぽい色だが、ライトをあてた全身が青くみえる。

瀬戸川の水は、きれに見えたけど、汚くて、でみると、にごっていました。ちょっとおくまでいくと紺屋田川より深かったです。ウシガエルは、外来種です。ヌマエビやスジエビもいました。おどろいたことは、なんと瀬戸川には、大量にメダカがいたのです。メダカは、きれいな川にすむ魚なので、びっくりしました。ヨシノボリもいました。ヨシノボリもきれいな川にすむ魚なのでびっくりしました。ふしぎに思ったことは、たばこが捨てそうちをせっちした。上流の紺屋田川がきたなくて、下流の瀬戸川が、きれいなことです。でも、コンビニが近くにできて、人がゴミを川や道にすてるようになったのです。わたしは、ゴミは、川や道にすてないで、ゴミ箱にすてるのがあたり前だと思います。（羽音）

紺屋田と瀬戸川をくらべていくつか不思議に思いました。紺屋田川は上流なのにみごとれていて、下流の瀬戸川のほうがきれいなことです。瀬戸川の周りは工場もあり川がよごれているはずなのにきれいな川にすむヨシノボリやメダカがいます。以前、メダカを紺屋田川に放流したそうで、下流の瀬戸川に流されたのではないかとシゲえました。十一年前、紺屋田川で黒メダカ、ヒメダカ、ほかにもオイカワやドジョウが見つかったそうです。紺屋田川の近くに住んでいる人がゴミをすてていると、瀬戸川の近くに住んでいる人もこまると思います。（なお）

瀬戸川は、下流で紺屋田川は、上流なのに、上流の紺屋田川のほうがきたないことが、おかしいと思いました。紺屋田川にいたのは、外来種のアメリカザリガニやミズムシとル、ミズカマキリですがどれもきたない川に住む生き物です。でも、カゲロウやブユなど、きれいな川にすむものもいました。紺屋田川で見つけたゲータイやペットボトル、パンのふくろなどのゴミは、瀬戸川とおおちがいです。紺屋田川と瀬戸川は、つながっています。紺屋田川の近くに住んでいる人がゴミをすてていると、瀬戸川の近くに住んでいる人もこまると思います。（なお）

ウシガエル

ウシガエルの子どもおたまじゃくし

きれいな川に住んでいる。

ちょこっとコラム

みんなのヒーロー
松本先生

「松本先生!!これって何エビですか？」と、子どもが聞くと、「これは、スジエビ。こっちは、ウシガエルのおたまじゃくしだよ。」と、瞬時に答えが返ってきます。「すごーい!!」と、子どもたちの目はキラキラです。優しく、楽しく生き物のことを教えてくれる松本先生は、みんなのヒーローでした。

ありがとう!!まっちゃん!!

水質調査新聞

瀬戸市立
古瀬戸小学校
5・6年
谷崎 麗七
5年 江蒼尾
6年 三好璃織

紺屋田川の未来を見つめて

私は水質調査を通して、紺屋田川をメダカがすめるきれいな川にしたいとも、と思うようになりました。そのために、川にゴミを捨てない努力をすることが大切です。ゴミは捨てればすぐ捨てるほどふえます。川をきれいにするために浄化装置を考えました。台風がきても流されないような形や、かたさ、ひものつけ方などを工夫すればがんじょうになります。メダカがすめる川にするためには、色々な工夫をすればいっかきれいな川はとりもどせると思いました。（麗七）

生き物がすめる川になってほしい。
これからも、ときれいな川になってほしい。
川にゴミを捨てないように、ねがっています。
みんなの愛される川になるように。地域の人から愛される川になってほしい。
いつ見ても美しく、いつまでもきれいなままでいてほしい。

古瀬戸っ子が見つめるのは、いつだって未来！

はめあいにする川をすみかにしてほしい。
田んぼでいろ豊メしにでよす。
屋敷がたいかて、川いで魚めいるしいな住もめほれろくカ住ってきいレダになっ
紺メだびし

ゴミを捨てないようにしよう。
メダカがすめるようなきれいな川になってほしい。
川がもきで
で魚めいるし
いな住もめほ
れろくカ住って
きいレダになっ
きれいな川にしたいです